

SDGsの学びをどう広げるか

～岡山市公民館の多様な連携モデルに学ぶ～

気候変動、生物多様性の喪失、貧困の拡大等、地球規模で様々な課題が顕在化するなか、E S D（持続可能な開発のための教育）やS D G sの推進を具体的にどう進めていくか、ユネスコ日本E S D賞を受賞した岡山市公民館の取り組み等から学びました。（受講者数 59名）

講義

「公民館発のE S Dへの巻き込み方」

岡山市立西大寺公民館長
内田 光俊氏



事例発表①

松本地域の学校や公民館での取り組み

中信地区環境教育ネットワーク事務局
中澤 朋代 氏



事例発表②

岡山市京山公民館の取り組み



岡山市京山公民館職長
内藤 元久 氏
(オンライン参加)



〈受講者アンケートから〉

● 受講した感想

- ・ E S D、S D G s に対する考え方が変わった。（公民館職員・関係者）
- ・ S D G s はひとりでは達成できない。つながりが大切だと思った。（一般）
- ・ 課題に感じている部分は共通していると思った。（県・国職員）

● 改めて課題だと感じたこと、これから考えていきたいこと

- ・ 環境に対するアプローチが公民館としてできていないことを感じた。（公民館職員）
- ・ 人づくり・街づくりに寄与できるアイデアをいただきました。（諸団体）
- ・ バックキャスト等の方法で、考える力を身につけさせたい。（学校教職員）
- ・ 住民主体の活動を支援するための職員や講師の役割（公民館職員・関係者）

